

交流のひろば

おたより コーナー

魅力再発見の 市有施設巡り

上増田町 奈良 優子 45

中学生の次女が、「市の施設再発見の旅」と題するスタンプラリーのカードを学校からもらってきました。今年から完全学校週五日制が実施されたことに伴い、子どもたちの体験活動充実と、市有施設の利用促進を図るために計画されたそうです。わ

まちのニュース NEWS

100年以上続く 灯ろう祭り

荒口町

八月九日、荒口町の観音寺で灯ろう祭りが行われました。百年以上前から伝わる子どもたちの祭りで、戦争中も中断することなく、毎年この日に実施。今回は、小学生五十人が参加しました。午後三時半、六年生がたたく太

たしは三十二の施設すべてを巡る「カンペキコース」を選んで、挑戦することになりました。

さっそく子どもと一緒に、大渡温水プール・トレーニングセンターへ。トレーニング室にはさまざまな運動器具がそろっています。子どもは運動部に所属しているので筋力アップに汗を流し、わたしは日ごろの運動不足解消のため、各種トレーニングを行いました。

また、先日は大室公園へ行き、市の歴史について学びました。民家園は赤城南ろく地方に見られる典型的な養蚕農家造りの家。かつてはこの前橋は養蚕がとても盛んだったことなどを子どもに話しました。

今後も、このラリーを通していろいろな施設へ行くのが楽しみです。

鼓を合図に、町内の小学生が観音寺に集合。五つのグループに分かれ、観音様へのさい銭をもらいに町中を回った後、スイカ割りや肝試しをして楽しく過ごします。日が暮れると、自分たちで作った灯ろう三十個に灯がともされ、会場は情緒たつぷりに。同町の阿部高幸自治会長は「町内の小学生がみんな集まりますが、全員が生き生きした表情をしていますね。この祭りが子どもたちの一番の思い出という人が、とても多いんですよ。この町独自の伝統行事なので、これからもずっと続けていきたいですね」と話していました。



まえばしの動物植物 ③④

アキアカネ

市自然環境保全推進委員

篠原 豊



「夕焼け小焼けの赤トンボ」の歌で親しまれている赤トンボが、アキアカネです。夏に、山に登ると、山頂で群れて飛ぶトンボが見られます。これがこのトンボの夏の姿です。

六月に里の水田などで羽化したトンボは、一週間ほどたつと山へ飛んでいき、十分に餌を食べ成長します。

秋になり成熟すると赤く色付き、八月の末から山を下り始め、九月中旬から再び里に姿を現します。

七月中旬に、空き地などで群れて飛んでいる黄色いトンボはウスバキトンボで、このトンボは赤くなりません。